

〈中国ろうきんは〉 「助け合う気持ちをつなぐ金融機関」を めざしています。

〈中国ろうきん〉では2012年4月から、
 お客さまのご利用を通して「東日本大震災復興支援」「子どもたちの夢の応援」
 「仲間の希望を支える活動」のための寄付につなげる取組みを実施いたしました。

〈ろうきん〉をご利用いただくことで「社会に貢献できる」しくみに、
 多くのお客さまから関心をお寄せいただいております。

2013年度は、中国地方に基盤を置く4つの社会貢献団体を寄付先とし、引き続き取組みます。

本年度の活動内容と、寄付先である中国地方に基盤を置く4つの社会貢献団体の活動をご紹介します。

2013年4月1日から2014年3月31日までのご契約やご利用が対象となります。
 原則として3カ月に1度、〈ろうきん〉が当該商品・サービスにもとづく寄付金をまとめ、該当の「社会貢献団体」に寄付いたします。
 いずれも、お客さまのご負担なく社会貢献につながる取組みです。ご支援とご協力をお願いいたします。



「あしなが育英会」への寄付目録贈呈

〈ろうきん〉をご利用いただくことで「社会に貢献できるしくみ」(2013年度)

〈ろうきん〉のカードローンご契約と年金型積立性預金のご契約が
 「仲間の希望」につながります。

カードローンの新規ご契約、
 またはご利用限度額の増額契約
 (対象商品:マイプラン、マイプラン☆ナビ、U-30マイプラン)
 年金型積立性預金の毎月一時金からの積立が
 セットされた新規ご契約
 (対象商品:財形年金、エース預金 年金型)

〈ろうきん〉が寄付
1件につき100円

【寄付先】
「チャイルドライン」
 (山口)
 社会福祉法人「いのちの電話」
 (鳥取・島根・岡山・広島)
※山口県は拠点が設置されていないことから
 同県では「チャイルドライン」に向けた寄付を行います。

〈ろうきん〉の教育関連商品のご利用で
 入院中の子どもたちに輝く笑顔をプレゼントすることができます。

〈ろうきん〉の「教育ローン」の新規ご利用、
 または予約型ローン「そなYELL」の
 教育目的のご利用

〈ろうきん〉が寄付
 新規ご融資額の**0.1%**相当額

学資積立「ドレミ協奏曲」の
 新規ご契約

〈ろうきん〉が寄付
1件につき100円

【寄付先】
 NPO法人 子どもNPO・
 子ども劇場全国センター
「ホットアートプレゼント」
 プロジェクト
 (中国地域版)

〈ろうきん〉・セブン銀行・イオン銀行ATMからのお引出しで、
 入院中の子どもたちに輝く笑顔のプレゼント、
 盲導犬育成の支援ができます。

〈ろうきん〉・セブン銀行・
 イオン銀行ATMからのお引出し

〈ろうきん〉が寄付
1件につき1円

【寄付先】
 公益財団法人 日本盲導犬協会
「島根あさひ訓練センター」

〈ろうきん〉を
 ご利用いただくことで
 「社会に貢献できるしくみ」
 寄付実績(2012年度実績報告)

- 教育関連商品の利用実績にもとづく「修学支援寄付」
 2012年4月～2013年3月末までのご利用にもとづき、あしなが育英会へ1,959,519円を寄付いたしました。
- ATM利用実績にもとづく「震災復興支援寄付」
 2012年4月～2013年3月末までのご利用にもとづき、日本赤十字社へ2,117,075円、日本ユニセフ協会へ1,307,933円を寄付いたしました。
- カードローンの契約にもとづく「寄付」
 2012年4月～2013年3月末までのご利用にもとづき、いのちの電話(鳥取・島根・岡山・広島)、チャイルドライン(山口県内3団体)に合計906,700円を寄付いたしました。

「生きたい」という心の声に耳を傾けて。

「チャイルドライン」(山口)

18歳までの子ども専用の電話。子どもの「ことば」の奥にある「こころ」を受け止めることを目的に「電話でつなぐこころの居場所」として、友だち関係、いじめ、虐待、性の悩み、あるいは話し相手として、子どもの声に寄り添っています。

■くわしくは→<http://www.childline.or.jp>

社会福祉法人「いのちの電話」(鳥取・島根・岡山・広島)

1日24時間365日、電話を通して人々の悩みを聴き、心の支えになるため活動を行うボランティア団体で、主に自殺予防を目的としています。日本自殺予防学会や国際自殺予防学会と連携し、全国51カ所の拠点で約7,000人のボランティア相談員が活動を続けています。

■くわしくは→<http://www.find-j.jp>

現場の声

電話を受ける相談員は、臨床心理師による講座など、2年間の養成を経て認定されたボランティア。「相談者に心を寄せ、傾聴する訓練」をしっかりと積んでいます。相談者の「死にたい」ということばの奥に隠れた、「生きたい」という想いを引出すため、日々尽力しています。しかし、かかってきた電話のうち、つながっているのはわずか約6%にとどまり、まだまだ電話回線・相談員を増やすことが課題となっています。



相談員は、1日平均45～60件の相談を受ける。

闘病中の子どもたちに「ワクワク」を。

NPO法人 子どもNPO・子ども劇場全国センター
 「ホットアートプレゼント」プロジェクト(中国地域版)

“入院中の子どもたちに楽しいひと時を”という想いから、プロのアーティストが行う公演活動。子どもたちがクラウン(道化)や人形劇、マジックなど、ワクワク夢中になれる楽しいひとときを体験することで、辛い治療や病気を一瞬でも忘れ、ホッとできる時間を小児病棟全体で共に喜び合ってもらうことを目的に、子どもNPO・子ども劇場全国センターが企画しています。

■くわしくは→<http://hotart-present.jp/>



興味津々の子どもたち。

病院のみなさんも一緒に。

現場の声

長い闘病生活は、大人でもつらく苦しいもの。それが、元気に遊びたい盛り
 の子どもたちならなおさらです。公演を行うことで、病気のことを忘れて心から
 笑える瞬間をプレゼントしたい。それが私たちの願いです。とはいえ、小児
 病棟での活動には、感染症対策やプライバシー確保、参加人数の変動による
 プログラムアレンジなど、課題が多いのも事実。常に最善の「プレゼント」が
 できるよう、パフォーマー全員が奮闘しています。

もっと多くの視覚障がい者に 「風を切って歩く喜び」を。

公益財団法人 日本盲導犬協会
 「島根あさひ訓練センター」

盲導犬の育成・訓練はもちろんのこと、視覚障がいのある人が日常生活をスムーズに送ることができるよう、約1週間のリハビリテーションも行っています。また、法務省の協力のもと、刑務所の受刑者が約10カ月間の育て親(パピーウォーカー)となって、盲導犬をめざす子犬たちを育てる日本初のプロジェクトも進行中。プロジェクトは今年で5回目となり、実際に受刑者に育てられた犬たちが、現在もセンターで訓練を続けています。

■くわしくは→<http://www.moudouken.net/shimane/>

現場の声

現在活躍中の盲導犬は約1,000頭。その数は増加傾向にあります。盲導犬は2～10歳という限られた期間で現役を終えるため、近年では、すでに盲導犬を利用している人への代替が6割で、新規利用者への貸与はわずか4割にとどまっています。より多くの盲導犬を育てるためには、パピーウォーカーや盲導犬になれなかった犬の引き取り手など、たくさんの方のご協力が不可欠。「肩で風を切って歩く気持ちよさを知った」という利用者の声をもっと増やしていきたいですね。



センター長の横田 剛さん



1 視覚障がい者にだけ妨げとなる高い位置の物も、避けて誘導できる訓練。 2 訓練犬が足の裏で排泄場所を特定しやすい人工芝を活用。 3 光のみ認識できる視覚障がい者のために、センター内の宿泊室の壁は白で家具は濃色と、家具の配色にメリハリをつけている。 4 信頼関係の深い職員と訓練犬。 5 パピーウォーカーへの感謝の気持ちを込めて、写真を掲示。